

夫婦二人三脚で作上げた市民のための交流サロン

活動地域（宮城県塩竈市）

男性のプロフィール

氏名：佐藤 亨さん

年齢層：高齢者層（60歳以上）

活動概要：公民館の視聴覚室を借り、ジャズを聞きながら本格的なコーヒーを楽しめる市民のための交流サロンとして「Saturday Jazz Cafe」を5～10月の期間限定で開催。平成23年9月に開催100回を迎えた。

活動開始のきっかけ

本場アメリカのジャズに触れて、老後はジャズ三昧を楽しむことを決意

現役のころから、退職したら何か地域活動をしたいと考えており、自分に何ができるかを模索していました。そんなとき、業界視察でアメリカに行くこととなり、憧れていた本場のジャズ・クラブへ行き、本物のジャズを堪能しました。昔からジャズが好きだったのですが、30代のころは仕事に没頭し、ジャズから一度離れていましたが、本場のジャズに触れたことで、再びジャズへの思いが膨らみ、CDや機材集めを始めました。そして、妻と話し合っ、60歳からはジャズ三昧で楽しく生きていくことを決めました。

そのころ、私は自治会長を務めており、公民館まつりで「公民館料理教室」の試食会があったので、その飲食コーナーで大好きなジャズを流しました。これを見た公民館の副館長から、「市民ボランティアとしてジャズ講座を開いてほしい」と依頼を受けました。地域活動をしたいという気持ちがあったので、これを受け入れ、平成15年5～10月までの期間限定で「ジャズ講座」を企画し、実施したのです。

このときは、ジャズ講座をその後も続けるつもりはなかったのですが、ジャズ講座に参加した方が公民館の機関紙に投稿した記事「至福のひと時だった」を見て、翌年からは、自らの主催で、公民館の視聴覚室を借りて、「Saturday Jazz Cafe」をやることを決めました。そして、「自分一人ではなく、妻と一緒にやれば、もっと気楽にジャズを聴いてもらえる雰囲気を作れるのではないか」と思い、夫婦でCafeを開くことにしたのです。妻も「手伝うからには頑張る」と意気込んでくれました。

活動の内容

ジャズを知らない人でも楽しめる、癒しの空間を夫婦でつくる

「Saturday Jazz Cafe」の目的は、市民のための交流サロンです。ジャズの好きな人たちだけでなく、ジャズを知らない一般市民の方々にも楽しんでもらえるように、親しみやすいスタンダードなものを選曲するようにしています。また、解説を織り交ぜながら、演奏の聞き比べなども行っています。

妻は、「自由でおしゃれなナイトクラブのような空間を作りたい」と、会場作りに力を入れ始めました。手作りスタンドや手作りの花を会場に飾ったり、回ごとに産地を変えた本格的なコーヒーを参加者にふるまったりと、毎回、工夫を凝らしてくれます。味気ない視聴覚室が、妻の手で、見事なナイトクラブ風の空間に変化します。

参加する方々が自由に交流のできる空間にしたいので、会員制とせず、誰でも自由に参加できる仕組みにしています。

◇「Saturday Jazz Cafe」の概要◇

開催：5月～10月

営業：第一・第三土曜日

午前10時～12時

参加費：300円



参加者との間に育まれていた“絆”

我が家は、東日本大震災で大規模半壊し、私たち夫婦は、市役所や友人宅で避難生活を送っていました。その後、自宅に戻り、自立して生活していこうとしたとき、「Saturday Jazz Cafe」に来てくれていた方たちが、ストーブを持ってきてくれたり、生活用品などを援助してくれたり、温かい支援を受けました。

自宅を訪ねてくれた方たち自身も同じく被災された方でしたが、長く Cafe をやってきたことで、参加者と我々夫婦との間に“絆”が育まれていたんだと実感しました。本当に嬉しく思っています。

周囲との関わり

二人で始めた Cafe が、みんなの Cafe に

「Saturday Jazz Cafe」を続けていく中で、常連の方がサポーターとして、Cafe の準備などを早朝から手伝ってくれるようになりました。会場を飾るために、手作りの花を持ってきてくれる方、手作りのお菓子を持ってきてくれる方など、集まる皆さんが Cafe を大切に思ってくれ、参加者が楽しめるように盛り上げてくれます。参加者の方が、Cafe の様子を撮影し、番組に投稿し、ローカル番組で紹介されたこともありました。Cafe の営業終了時には、参加者全員が後片付けを手伝ってくれています。

二人で始めた Cafe ですが、今では、参加者全員がサポートしてくれる Cafe になったと感じています。

直面した課題と解決方法

Cafe の期間以外にも、活動の場を広げる

Cafe の開催は5~10月限定で行っているため、「それ以外の期間にも何かできることはないか」、また、参加者から「何かをやってほしい」との声をいただき、「Men's Club」を設立しました。その内容は、「仙台の一流ホテルでの昼食会とジャズ・クラブを借り切ったの新年会」、「紅茶専門店での紅茶の味比べとジャズライブ」、「日本酒ウンチク講座」など、多彩な内容です。開催日は、イチニイサン（1月23日）、ニイニッサン（2月23日）、サンニッサン（3月23日）と覚えやすい日程としています。

このように、Cafe の休み期間となる時期に交流の場を充実させることによって、皆さんに、さらに楽しんでもらえるようになりました。また、交流を深める上でも効果を発揮しているのではないかと思います。

これからの展望

「Saturday Jazz Cafe」を通じて、交流の輪をもっと広げたい

Cafe に参加される方々の中には、様々な才能を持った方がいらっしゃいます。最近では、そうした方々が Cafe で発表するようになってきました。例えば、写真や手芸などです。Cafe が参加者の皆様の才能を表現する場として利用され、交流の輪をさらに広げていくことに役立っていただければと思っています。

妻がいたからこそ、約10年にわたって、Cafe を持続できたと思います。また、夫婦で活動をしているためか、参加者の中にも夫婦で訪れる方が多くなっています。ときどき、妻と「いつまで続けていこうか」という話をするかもしれませんが、皆さんからの励ましや「続けてほしい」という声が嬉しくて、今までやってきました。そうした方々の気持ちを裏切らないよう、これからも、妻と一緒に、できる限り続けていこうと思っています。